

フィンランド高齢者向け福祉施設 事例

※いずれかの施設の内2つの施設に訪問する予定です

① ミルリマトカ シニアセンター(Myllypuro Senior Centre)

1970年代の療養病院をリノベーション。居心地の良い共用空間を増設し、中央コリドーをショートカットする設計。

冬季庭園やバルコニーを廃病院の外観に調和させている。施設内にはカフェや多目的ルーム、サウナなど豊富な共用設備あり。

ヘルシンキ市は、かつて病院だった建物を高齢者センターへと全面的かつ徹しい改修工事を経て改築し、現在では100名を超える高齢者に機能的かつ安全でアクティビティ満載の住まいを提供しています。

長期ケアを目的とした最初のミルリプロ病院は1970年に完成し、エルッキ・ヘラマとヴェイヨ・マルティカイネンによって設計されました。

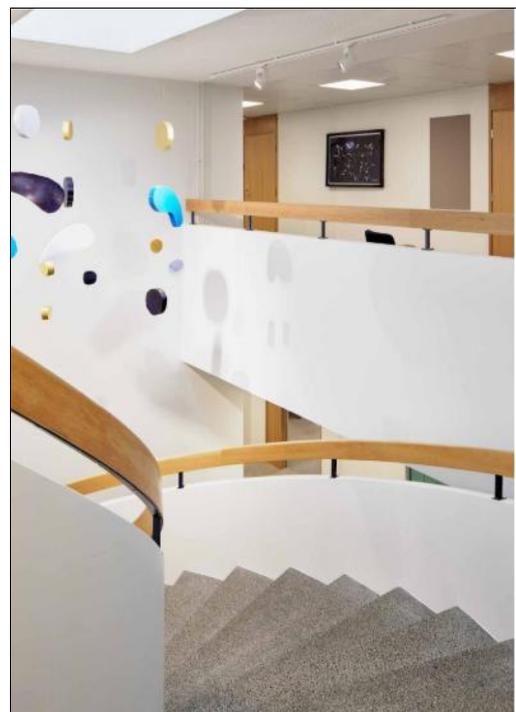
シニアセンターのコンセプトは、3つのサービス領域をカバーすることです。

1. 入居者へのケアと治療を提供し、家族も参加できるアシステッドリビング。
2. 食事、運動、趣味、日中活動、リハビリ、集会所、ガイダンスとカウンセリング、ボランティア活動など、在宅シニアをサポートするさまざまなサービス。ヘルスセンターと病院、デジタルサービスによるサポートも提供されます。
3. 在宅シニア向けサービスのホームヘルパーの拠点。

ミルリプロシニアセンターには、カップル用の部屋を含む、長期住宅と短期ケアのための11のグループホームに合計136人の入居者がいます。グループホームの入居者は個室を持ち、共有エリアにはキッチン、リビングルーム、サウナ施設があります。グループホームに加えて、施設にはサービスセンター、セーベルと呼ばれる日中活動ユニット、在宅シニア向けアクティビティセンター、レストランがあります。3階から7階には、それぞれ12~13室のグループホームが2つあり、それぞれに専用の共有スペースがあります。高層ビルからは街並みを一望できます。各階には、ポルカ、リズム、メロディー、サンバ、ソナタといった音楽用語が付けられています。

病院を改造して、近隣の高齢者や失業者も利用できるシニアセンターにするという設計は、1階を活性化することを意味しました。レストラン、レクリエーションスペース、日中活動施設などの多くのサービスを2階から1階に移しました。これらのサービスは、以前は閉鎖されていた1階の地下スペースに設置され、以前改装され、さらに改善された庭園といくつかの接続部で開放されました。中庭のパビリオンと本館の間の通路には、時々一時的な美術展が開催される2階建てのウィンターガーデンが追加されました。ウィンターガーデンとパビリオンの階段の吹き抜けには、アーティストのジェニ・ロープによるモビールAとÖが吊り下げられており、HAM /ヘルシンキ美術館の委託作品です。ロビーのラウンジには花崗岩のアート作品もあります。インテリアデザイン、外部のランドスケープデザイン、屋内植栽もオフィスで設計されました。

ファサード、窓、そして屋根が改修されました。砂質レンガの外壁は、明るい色調の焼成レンガに取り替えられました。換気窓の前には、穴あきエナメル金属ストリップが設置されました。元のバルコニーはガラス張りになり、開口部が設けられ、閉じた端にはフレンチバルコニーが設けられました。



② マルミンカルタノ住宅型介護ホーム(Malminkartano Residential Care Home and Apartment Building)

赤レンガとフィンランド産木材を活かした温かなデザイン。グループホームの共用スペースは公園に面し、窓多用で日当たり良好。住まいとしての居心地を重視。

ヘルシンキ、マルミンカルタノの緑豊かな住宅街に囲まれた、高齢者向け住宅兼アパートです。高齢者の方々に安全な住まいを提供するとともに、地域住民の皆様に共同施設を提供しています。

1階には、レストラン、ジム、サウナなど、高齢者の日常生活を支える施設が充実しています。2階と3階には4つのグループホームがあり、24時間体制のケアを必要とする合計60名の入居者が暮らしています。全入居者に個室と浴室が設けられています。グループホームの明るい共用スペースとガラス張りのベランダは、南側の公園に面して開放されています。

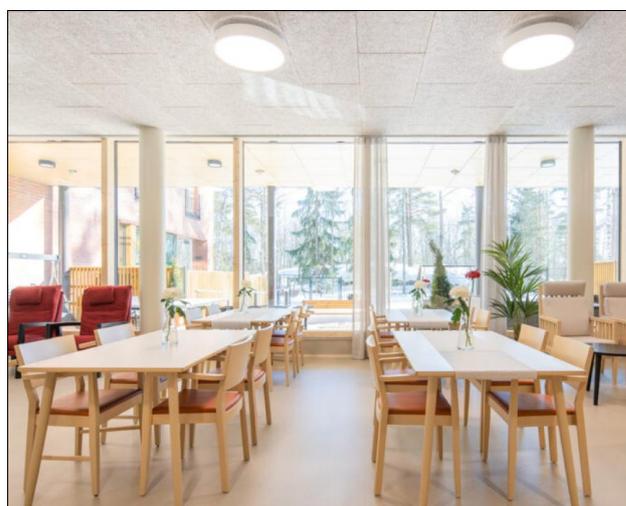
65歳以上の自立した高齢者の方々に、53戸のシニア向け賃貸マンションをご提供しています。これらは1階、4階、5階に位置し、広さは30~70㎡で、主に約40㎡のワンルームマンションです。1階には専用の中庭テラス付きのマンションがあり、2階にはバルコニーまたはフレンチバルコニー付きのマンションがあります。ご入居者の皆様には、個々のニーズに基づいた様々なホームサービスとケアサービスをご提供いたします。

設計段階はサービス事業者との緊密な連携のもと進められました。施設的な外観や雰囲気避け、居住者にとってまるで我が家のような居住空間となるよう、特に配慮しました。居室と共同スペースからは緑豊かな景観と心地よい自然光が差し込みます。

素材は、人間味と温かみを強調するために選ばれました。人の手による痕跡が残る自然素材です。主な素材は、赤レンガ(現地で造られたもの)とフィンランド産の針葉樹材で、インテリアデザインにも使用されています。インテリアデザインのベースは、フィンランドの自然と四季折々の表情です。

2019年完成。

6500平方メートル(8087平方フィート)



③ コティサタマシニア共同住宅(Kotisatama Senior Co housing)

参加型設計により、住民が共用スペースの計画に関与。キッチン、ライブラリ、サウナなど共有施設を持ち、屋上テラスも設けられている。共助を重視した新モデル。

コティサタマ(母港を意味する)は、ヘルシンキの新しいウォーターフロント開発地のひとつ、カラサタマ再開発地区にある中高年向けの持ち家住宅コミュニティです。

これは、アクティブシニア協会(Aktiiviset Seniorit)が、最近退職した、または近い将来退職予定の会員のために実施する2つ目のプロジェクトです。入居資格は、居住者の少なくとも1人が48歳以上であることです。この施設は、近隣住民による相互扶助を基盤とし、居住者のための多くの共有スペースを備えた、高齢者向けの新しいタイプの居住施設です。

建築設計のコンセプトは、将来の居住者が参加し、平面図、間取り、使用する素材、その他の詳細を決定できるようにすることです。将来の居住者がプロジェクトの第一段階から参加できるよう、共同設計の手法が考案されました。共同設計の段階では、人々は建築家と長時間にわたって議論する機会があり、いくつかの代替スケッチが採用され、いくつかは破棄され、新しいアイデアも導入されました。

居住者は、それぞれのフラットを共同設計するだけでなく、共用エリアの設計にも重要な役割を果たしました。階下には、共用キッチン、ダイニングルーム、図書室、テレビ付きの小さなリビングエリア、オフィス、ランドリー、自転車置き場、そして居住者専用の収納スペースがあります。最上階も共用で、2つのサウナ、エクササイズルーム、暖炉のある多目的リビングエリア、そして屋上庭園があります。

ブロックのもう半分、レオンサタマは、ヘルシンキ住宅生産局（ATT）が所有する、55歳以上の高齢者向け住宅です。



④ サガケア(Saga Care) サガハウス・ムンキニエミ(Saga Palvelutalo Munkkiniemi,)

Saga Care(サガケア)は高齢者のための賃貸住宅や福祉サービスを提供するフィンランドの最大の会社の一つ。ヘルシンキ、テュルク、ラウマなど各地に住宅施設を持ち、新しい住宅もさらに建築中。

老人ホームなどを運営する Esperi Care グループも傘下であり、Saga Care の住宅は、ラグジュアリーで質の高い生活、サービス、セキュリティを提供します。

自宅のように独立した暮らしと、プールやレストランなどのアクティブな設備環境だけでなく、様々なケアサービスも可能です。

全て賃貸の自立型アパートメントで、シニアのニーズに従ってデザインされています。

また、メディカルスタッフによる 24 時間の緊急サービス、ケータリング、清掃など様々なサービスが可能ですが、基

本パッケージに加えて必要なものを選択して追加できます。

Saga Munkkiniemi は、ヘルシンキのムンキニエミ地区にあるシニアハウスで、3つの建物で構成されています (Dosentinpuistosta, Dosentinrinteestaa, Dosentinlinnasta)。

ムンキニエミの美しい公園地区にあり、ヘルシンキ市街中心にもアクセスがよいエリアです。レンタルホームは全264室、広さは30から87平米。建物は渡り廊下で繋がっているため、行き来も容易。

在宅ケア、清掃、ランドリー、メンテナンスのサービスだけでなく理学療法士や美容師など、高齢者のための様々なサービスが備えられ、レジャーやカルチャーのアクティビティも提供しています。居住者は自宅のようにご自分の家具を使用でき、ほとんどの部屋にバルコニー、キッチン、バストイレ、バリアフリー緊急電話設備があります。公共エリアには図書館、レストラン、カフェ、サウナ、プール、季節ごとに楽しめるガーデンがあります。

